

教育センター学びの丘研修員における学びについて

日高川町立川辺西小学校

教諭 井原啓順

和歌山県教育センター学びの丘における研修員として研究と修養を重ね、教育に関する専門的な知識や技能についての理解を深めるとともに、教員としての資質・能力の向上を目指してきた。その1年間の学びについて述べる。

研究では、これまでの自身の体育授業を省察し、児童が自身の体の動きの感覚である「動感」を手掛かりに学習を進める跳び箱運動の授業づくりについて研究した。動感を言語化し共有する活動や、ICTの活用等を取り入れた授業を構想・実践する中で、児童が友達の動感を参考にしながら自身の体の動かし方を調整し、主体的に学習に取り組む姿が見られたことから、児童の運動に対する捉え方の変容につながる可能性を実感することができた。

修養では、様々な研修講座等を受講することで、今日的な教育課題や学校運営に関する考え方について理解を深めることができた。また、異校種や異なる教科の教員と交流する中で、多様な視点から教育を捉えることの大切さを学ぶとともに、全ての児童が安心して学習に取り組むことができるよう、特別支援の観点を踏まえた授業づくりの重要性についても改めて実感した。さらに、ミドルリーダーとして学校運営の中核を担う立場を自覚し、学校のビジョンを実践に落とし込む力や教職員同士の協働を促すコミュニケーション力を高めていくことの重要性についても学ぶことができた。学校の課題を構造的に捉える分析力や、教職員の働き方を意識した学校運営やマネジメントについての視点をもつことの必要性についても理解を深めることができた。

今後は、研究で得られた成果や課題を基に実践を積み重ね、よりよい授業を構想していくための専門性を高めていきたい。特に、児童が主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを目指すとともに、児童一人一人の実態を丁寧に捉えられるようにしていきたい。また、研修員としての1年間で得た学びを所属校や地域の学校に還元し、児童と共に学び続ける教員でありたい。